

ク切ルノ目的ハ精細緻密ニ檢スルニアルヲ以テナリ。

以上ノ理由ニヨリテ、本法ノ氷結「ミクロトーム」ヲ用フルコト不可ナルハ明カナリ、然ラバ只「ゲラチン」ノミニテ包埋シ、之レヲ「ミクロトーム」上ニテ「チエルロイヂン」包埋ノ如ク切片ヲ調製スル法タル、己ニ一八九五年ニコラス氏ノ行ヘルトコロニシテ、今更ニ云々スルノ餘地ナシ。

只其「ゲラチン」溶解ノ「プロセント」數ト、浸潤セシムル溫度及ビ時間ノ多少福士博士法トニコラス氏法ト異ナルヲ見ル、是ニ從ツテ見ルニ、福士博士ノニコラス氏ト異ナル点ハ數上ノ變化ニシテ、大体ニ於テハ同一ナリト信ズ。其數ヲ異ニセル理由ノ如何ナル、同氏モ未ダ之レヲ明カニセラザルヲ以テ、了知スル能ハザル無論ナレドモ、特別ノ理由ナクンバ、先輩學者ノ業績ヲ慕ヒテ、ニコラス氏法ニ從フノ佳ナランカト思惟ス。

以上余ノ得タル實驗ハ、其數極メテ少ナキヲ以テ、今後大ニ研究スベキ、モトヨリ言フ俟タズト雖モ、次ニ大要ヲ總括シ、以テ諸賢ノ判斷ヲ乞フモノナリ。

一、福士博士「ゲラチン」包埋法ヲ行ヘル切片ハ之レヲ鏡

査スルニ常ニ大小種々ナル紡錘形ノ裂隙ヲ生ジ、「ゲラチン」網ヲ見ル如シ、

二、福士博士「ゲラチン」包埋法ニヨル標本ハ「ゲラチン」ノ色素ヲ濃染スルノ嫌アリ。

三、「ゲラチン」包埋後氷結「ミクロトーム」ヲ應用スルハ組織ノ破裂及「ゲラチン」ノ破裂ヲ來スヲ以テ不可ナリト信ズ。

四、已ニ「ゲラチン」包埋法タル諸學者ノ研究スルトコロニシテ福士博士ノ包埋法ノ「ゲラチンプロセント」及浸潤溫度、及時間ニ於テ只數的變化ヲナセル理由ノ奈邊ニ在リヤ、ヲ疑フモノナリ。

五、余ハ軟カキ脂肪組織等ヲ切片ニスルニニコラス氏法ヲ賞揚スルモノナリ。(大正四年十二月二十五日脱稿)

木内博士尿診斷ニ就テ

Ueber Kirsch'sche Urindiagnose.

眞 下

誠 (大卒業)

顧ミレバ吾人ハ無意識ニ獨逸ヲ謳歌崇拜セシ事茲ニ幾星

霜、而シテ吾人ノ將來ハ一ニ掛リテ以テ獨逸語ノ熟達如何ニ存スルノ奇觀ヲ現シ畢ニ醫學ハ即チ獨逸ニシテ獨逸ハ即チ醫學ヲウ奇シキ觀念ハ到底是ヲ吾人ノ腦裏ヨリ抹擦シ得ベクモアラザリシナリ。

是余ガ同表題ノ下ニ十月二十日發行ノ醫學中央雜誌ノ冒頭ニ述ベタル僞ラザル告白ニシテ曾テ余ト級ヲ均シウセシ諸士ニシテ一讀又再讀スルアラバ蓋シ思半バニ過グルモノアラン。

吾人ノ初メテ學ヲ本校ニ受クルヤ劈頭先ヅ吾人ノ心膽ニ映ゼシハ實ニ獨逸語ノ醫學ニ及ボス勢力ノ偉大ナル事ナリシナリ見ヨ當時獨逸語ニ於テハ未ダ一丁字ダニナカリシ吾人ハ凡ソ醫語ノ現ハル所ソコニ必ズ獨逸語ノ附加セザルハナカリシ狀態ヲ見テ實ニ茫然トシテ爲ス所ヲ知ラザリシニアラズヤ

是ニヨリテ是ヲ見レバ吾人ヲシテ獨逸崇拜念ヨリ延エテ世界の大發見ハ必ズヤは獨逸人ノ專有物ニシテ遇々日本人ニヨル大發見アルモ是畢竟僥倖中ノ僥倖ナリト迄思ハシメタル所以ノ者モ亦想ヘバ實ニ故ナキニアラザリシナリ、然レドモ近時我醫學ハ駸々トシテ其停止スル所ヲ知

ラズ諸種ノ新發見續出シテ今ヤ將ニ獨逸ヲ凌駕センズ勢トナリ爲ニ吾人ノ先入主タル獨逸崇拜念ハ漸次ニ濛濛化セントシツ、アルナリ、而シテ諸種ノ發見中余ハ先ヅ以テ木内博士尿診斷法ノ實ニ世界的偉績ノ一トシテ醫學史上晃トシテ永ヘニ消ユル事ナキヲ思ヒ日本醫學ノ爲否世界醫學ノ爲ニ快心ニ耐エザルナリ

余曩ニ學ヲ卒ヘテ故郷ニ歸ルヤ痛ク尿診斷法ニ興味ヲ有シ終ニ親シク博士ノ指導ヲ受クル事トナリス

現時尿診斷法ニヨリテ的確ニ診斷シ得ベキ者ハ妊娠ヲ初メトシテ胎兒男女診斷及ビ肺、脊髓、骨、肉腫、網膜炎、脈絡膜炎、肝、脾、筋腫、卵巢囊腫、腦、等ノ諸疾病ニシテ恐ラクアラユル疾病ハ早晚尿診斷ニヨリテ解決サルルニ至ルナラン

而シテ試驗材料ハ尿、血清、血液、乳、各臟器エキス等隨意ニシテ而モ同一ノ方法ヲ以テ診斷シ得ベシ

余ノ研究實施セシ試驗法ハ濾過法 *Filtrierverfahren* 破壊酵素ノ分離 *Isolierung der Minnsfermente* 透析法 *Dialysierverfahren* (甲改良透析法 *Reformdialysierverfahren*)

乙新透析法 *Neu-dialysierverfahren*) 破壊酵素ノ死滅

Ablösung der Minusfermente 及通過法 Passierverfahren
等ナリ而シテ尿診斷法中最モ實用的簡便ニシテ現時廣ク
行ハレツ、アルヲ濾過法ナリトス該法ハ諸種ノ文獻ニ徴
シテ既ニ業ニ諸士ノ熟知スル所ナランモ余ハ特ニ茲ニ
ヲ述ベテ諸士ノ記憶ヲ新ニセントス此際木内式尿診斷用
器ヲ用ユルヲ最モ使トス而シテ爾餘ノ諸法ハ舉ゲテ醫學
中央雜誌上ニ讓ラント欲ス

先ヅ口徑四、六乃至六仙米ノ漏斗ニ濾紙ヲ乗セ此中ニ純
良ナル血炭末ト血炭匙ニテ約二杯ヲ盛り其中央ヲ血炭匙
底ニテ輕壓シテ稍陷凹セシメ其中心ニ向ウテ檢尿五立仙
ヲ「メートルグラス」ヨリ二乃至五滴位ヅツ徐々ニ滴下シ
吸收セシメ漸次如斯シテ尿ヲ全ク血炭中ニ吸收セシメ二
三分其マ、放置シ後蒸溜水ヲ五乃至二十滴ヅツ「メート
ルグラス」ヨリ血炭ノ凹陷中心ニ滴下シテ約五立仙ノ濾
液ヲ得ベシ是ヲ第一濾尿ト稱ス、此第一濾尿ヲ新血炭末
ニヨリテ前述ト同法ヲ以テシ約五立仙ノ濾液ヲ得是ヲ第
二濾尿ト稱ス、此第二濾尿ヲ更ニ新血炭末ニヨリテ尙前
述ト同法ヲ以テシテ約五立仙ノ濾液ヲ得ベシ是ヲ第三濾
尿ト稱ス

次ニ此第三濾尿ノ約三分ノ一量ヲ清淨ナル他ノ試験管ニ
移シ是ニ一%「バンプロール」液〇・二立仙ヲ加ヘ蒸溜水
ヲ注下シテ全量ヲ十立仙トシ少シク是ヲ振盪シ試験管把
持器ヲ以テ把持シ火炎上ニ煮沸シテ二立仙迄濃縮セシム
該濾尿ニシテ尙蛋白質分解產物ヲ含有セバ反應ハ陽性トナ
リテ液ハ紫色調ヲ帶ブベク含有セザレバ陰性トナリテ液
ハ無色透明ナルカ或ハ稍黃色調ヲ帶ブ、若シ反應陽性ナ
ル時ハ殘液ナル三分ノ二量ヲ更ニ新血炭末ニテ濾過シ上
述ノ如ク蒸溜水ヲ注下シ約五立仙ノ濾液ヲ得其三分ノ一
量ニテ「バンプロール」反應ヲ檢ス

反應陰ナル時ニハ殘液三分ノ二量ニ基体〇・〇五瓦ヲ基
体匙ニテ入レ(即チ五杯)之レニ蒸溜水ヲ注下シテ全量ヲ
十立仙トナシ其マ、放置スルコト八時間ニシテ之ヲ清淨
ナル他ノ試験管中ニ只濾紙ノミニテ濾出シ其濾液ニ一%
「バンプロール」液〇・二立仙ヲ入レ少シク振盪シテ試験
管把持器ヲ以テ把持シ火炎上ニ煮沸シテ二立仙迄濃縮セ
シム、煮沸液若シ紫色調ヲ呈セバ反應ハ陽性ニシテ呈色
ナケレバ陰性ナリ、「ニンゼリン」ヲ用ヒテ反應陽性ナル
時ハ檢尿ハ妊娠ヲ示シ若シ陰性ナル時ハ否妊娠ヲ示スモ

ノナリ「セキシシ」ヲ用ヒテ陽性ナル時ハ男性胎兒ニシテ陰性ナル時ハ女性胎兒ナルヲ示ス、他ノ疾病診斷モ亦陽性ナレバ當該疾病ノ存在ヲ示ス

余ノ百有餘例ニ亘ル實驗例ハ煩ヲ省ク爲茲ニ之ヲ略スル事ト致シタリ、好學ノ士願クハ醫學中央雜誌ノ十月二十日號一覽ヲ吝ム勿レ

余ハ尙該雜誌上ニ於テ尿診斷ガ吾人人類及ビ動物界ニ齎ラス天幸ヲ思ヘ浮ビシマ、ニ陳述スル所アリタリ即チ初期妊娠診斷、初期流產診斷、妊娠中胎兒ノ性診斷、子宮外妊娠ノ眞否決定ニ躊躇スル時ノ診斷、理學的診斷法ニヨリテ未ダ不明ナル程度ノ疾病ヲ早期ニ診斷シ得ル事、尿ハ新舊ノ如何ヲ問ハズ而モ酵素ハ寒暖ニヨリテ何等ノ影響ヲ受ケザル事、材料ノ得易キ事、方法ノ簡單ナル事等比々皆然リ

尙余ハ試驗實施中ノ注意事項トシテ試驗管清淨法及煮沸法、血炭末上ニ尿或ハ蒸溜水点滴法、「パンプロール」反應檢査法及ビ反應出現鑑別法、基体投入法、基体投入後ノ濾過法、妊牛牛乳飲用者尿及尿診斷ニ就テ、「パンプロール」ノ經濟的使用法、血炭使用上ノ注意、妊娠及ビ產褥

反應出現期、試驗管ト試驗管把持器ニ挿入スル方法等ヲ述ベ最後ニ馬尿採取法（尿診斷ハ獸醫界ニ歡迎サル、事頗ル大ナリ）等ヲ述ベテ稿ヲ終ヘタリ之等ハ畢竟余ノ老婆心ヨリ出デタル一片ノ蛇足ニ過ギムト雖又以テ一顧ノ價值ナキニシモアラザラム

願クハ未ダ尿診斷ニ疑心ヲ抱クノ士ハ須ラク余ガ醫學中央雜誌上ニ發表セル所ヲ一讀又再讀シテ晨ニタヲ計ルベカラザル駸々タル醫學ノ進歩ニ遲レザラン事ヲ、蓋シ是獨リ吾人一個人ノ利ニ止マラズシテ實ニ國家ノ益ナレバナリ

稿ヲ了ウルニ際シテ懇篤ナル高教ト豐富ナル材料ヲ給セラレ淺學ナル余ヲシテ終ニ尿診斷ノ一般ニ通ゼシメラレシ恩師木内博士ニ對シテ茲ニ滿腔ヲ感謝ノ意ヲ表ス

（大正四年九月廿五日脫稿）

「トラホーム」ノ統計的小觀察

醫科四年級 小山元 瀧

「トラホーム」ハ一種ノ傳染病ナルハ學者ノ等シク認ムル